



## 男女共生 レポート

### ◆テーマ◆

パネルディスカッション

### 『女達が変わる21世紀』

### 『アメリカ女性リーダー達の挑戦』

分科会「政策に女性の声を」アメリカ女性達に学ぶ」

去る4月3日、北九州市立女性センター

「ムーブ」において行われた「女性が変わる21世紀」アメリカ女性リーダー達の挑戦」と題した公開フォーラムと分科会に、松木和美さんが参加し、その模様や感想を本誌に寄せていただきました。松木さんは以前から女性問題についての関心が高く、今までもさまざまな講演会やこうした活動に積極的に関わってこられ、本誌の創刊号でも座談会に参加して下さった方です。紙面の都合上全てをご紹介することはできませんが、松木さんの貴重なご経験を一個人のもので終わらせず、広く皆さんにお知らせできればと、ご協力いただきました。

### 公開フォーラムを聞いて

「DO IT NOW」すくくアクションを。これは「全ての女性に平等の権利を目的に創立されたNOW(全米女性機構)の名称の由来だそう。その名前の通り、アメリカの女性は行動的です。

公開フォーラムでは、アメリカの現状を述べるとともに、21世紀へ向けて世界の女性たちが抱える問題について話合われました。なかでも、男性社会が必然的に内包してきた矛盾を指摘し、欠落している女性の視点をおおくと、自分たちのおかれている環境の中で精力的に活動しているアメリカの女性たちの姿に感動しました。旧態依然とした日本の体質を打破するためには、意思決定する場への女性の参画が必要です。日本の女性は教育レベルも高く、エネルギーもたっぷり。でも、そのためのアクションが欠落していると指摘され、本当にその通りだと痛感しました。

### 分科会に参加して

では、どうすればいいのでしょうか。社会は男と女で構成されているにも関わらず、長い間女性の視点を封じ、男性社会で来たための歪み・弊害が、日本でも今様々な分野であらわれてきています。それに対応するためには、政策に女性の声を反映させることが必要です。しかし選挙には多額の資金がかかり、有能な人材が政治の世界へ入っていけない、この点に注目して、女性た



▲写真左より参加した星立文子さん、全米中絶連盟専務理事のウィッキー・サポートさん、松木和美さん

ちがお金を出し合い女性候補者を発掘・支援しているのが、アメリカの「エミリーズ・リスト」\*という団体です。エミリーズ・リストは「アーリー・マナー・イズ・ライク・イースト」の頭文字で、早い時期にお金を出すとイースト菌のようにパンをふくらませることができ、つまり早い時期にお金を出し合おうということでした。当初はわずか25名の女性たちからスタート。当初はわずか25名の女性たちからスタート。当初はわずか25名の女性たちからスタート。当初はわずか25名の女性たちからスタート。

### 共生社会へ向けて

これまで、男性理論のみで突き進んできた社会のさまざまな分野に女性の視点が加味されることにより、21世紀は、性別による役割分業から、個性・適性・能力に応じた役割分担へ、主従関係から対等なパートナーシップの確立へと、ようやく、男女共生の時代へとステップアップすることになります。男と女が、支配や依存関係から脱皮し、本物の平等と友愛関係に生まれ変わるとき、きっと今よりはるかにバランスのとれた、成熟した社会になるはず。私達が生きた社会より、ほんの少しでも進歩・向上した社会を、次世代にバトンタッチしたい。未来を確かなものとするために。

### Today's Date

- 主催 ジャパン・ソサエティー  
リーダーシップ111  
北九州市立女性センター「ムーブ」  
福岡県女性総合センター「あすばる」  
福岡市女性センター「アミカス」
- パネリスト・エレノア・スミール  
元NOW(全米女性機構:National Organization of Women) 理事長  
・フェミニスト・マジョリティー 財団理事長  
・ウィッキー・サポート  
全米中絶連盟(National Abortion Federation) 専務理事  
・シーラ・オコネル  
・エミリーズ・リスト 教育部長